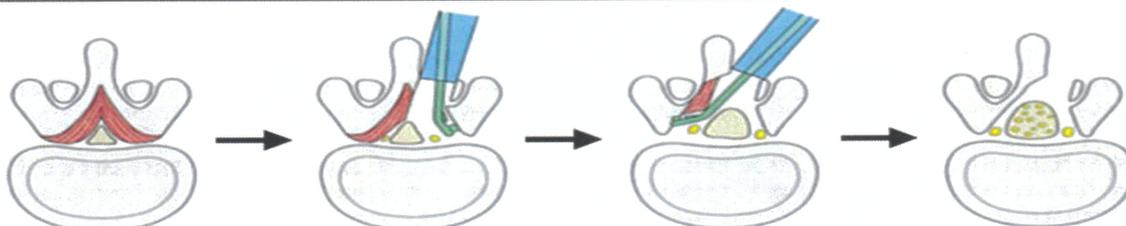
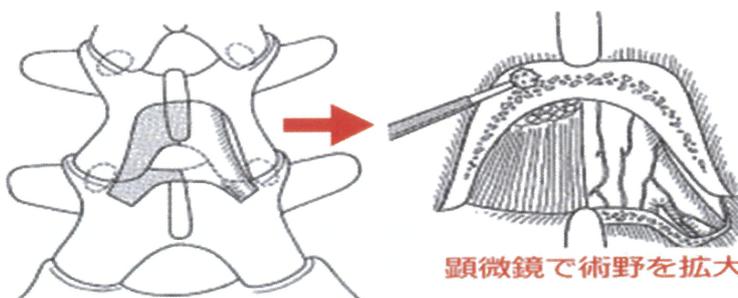


内視鏡下椎弓切除術 (MEL : Micro Endoscopic Laminectomy) とは

腰部脊柱管狭窄症とは加齢と共に神経の通り道(脊柱管)が狭くなる疾患です。この手術方法として、椎弓切除術、脊椎固定術が以前からありましたが、患者さんの負担を軽減するために、最近では内視鏡下椎弓切除術(MEL)を行うことが多くなりました。MEL とは脊椎内視鏡を使い、狭くなった脊柱管を広げるといふ手術方法です。

MEL のメリットで最も特徴的なことは、内視鏡を用いるため侵襲が少ないということです。皮膚切開は約2cmのため創痕が目立たず、回復が早い、手術後の痛みが軽い、感染の危険性が低い、などが挙げられます。これらの事から、退院が早くなり日常生活や仕事への早期復帰が可能となります。

逆に MEL のデメリットは、脊柱管狭窄が広範囲で起こっていて削る部分が多いケースや背骨の歪みが大きく金具で固定しなければいけないケースは手術適応外となってしまいます。基本的に治療する場所が1～2ヶ所の場合に限られます。MED と異なる点は、骨切除量が多くなるため MED よりやや出血量が多く、手術時間も長くなるということです。しかし、これらの事は他の従来の手術方法と比べた場合には、デメリットとは言えないでしょう。



まず椎弓を切除して、変形肥厚した椎間関節の内側一部を平坦になるように削ります。ついで分厚くなった黄色靭帯を切除して、脊柱管のスペースを確保します。すると図に示す通り、神経の圧迫が解除されます。



医療法人友誼会

奈良友誼会病院

Nara Yukukai Hospital